講義科目名称： 教育原理　　　　　授業コード：

英文科目名称： Principles of Education

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	１年	2単位(2-0)	教職科目
担当教員			
照屋　信治			
授業形態：講義	ナンバリング：TTC102		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 教育の理念や基本的な概念の発生を歴史的展開の中で理解し、現代の教育課題を読み説く際の指針として活用する。 【到達目標】 １）教育学の諸概念ならびに教育の本質及び目標を理解している。 ２）教育を成り立たせる子ども、教員及び課程等の相互関係を理解している。 ３）課程及び社会による教育の歴史を理解している。 ４）近代教育制度の成立及び展開を理解している。 ５）現代社会における教育課題を歴史的な視点から理解している。 ６）課程及び子どもに関わる教育の思想を理解している。 ７）学校及び学習に関わる教育の思想を理解している。 ８）代表的な教育化の思想を理解している。
授業の概要	近現代日本の学校教育の歴史を学び、そこから生まれてきた教育の理念や基本的な概念を学ぶ。それと同時に現代日本の教育現場の諸問題を検討しながら、そこに教育の理念や基本的な概念を確認してゆく。具体的には近代日本の歴史を概観し、自由と統制、個性と平等といった問題を検討する。また、学校現場の諸課題として、小学校英語教育、習熟度別授業、アクティブラーニング、「生命に対する畏敬の念」、障害を持つ生徒の教育権、いじめ問題、学級崩壊、ゼロトレランスなどの問題を検討する。
授業計画	第１回　講義概要説明、構成的エンカウンターの体験、理想の教育・教師について 教育原理とは、何を学ぶのか、講義計画、評価の方法、心構えの確認。その後、「理想の教師」というテーマで学生間の意見交換を行う。 【事前学習】「理想の教師」というテーマを４００字程度でまとめてくる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。 第２回　カリキュラム編成の歴史と理論（デューイ、ブルーナー、学びの理論） 児童中心主義カリキュラム（デューイ）、教科中心主義カリキュラム（ブルーナー）の成立過程とその思想について学ぶ。 【事前学習】テーマに関する用語を辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。 第３回　近代日本の学校教育の歴史①（明治期、教育勅語への道、国民皆学という考え方） 1872年の学制から1890年の教育勅語体制の成立までの近代学校制度確立までの歴史を学ぶ。歴史に埋もれた自由教育の可能性を掘り起こす。 【事前学習】テーマに関する用語を辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。 第４回　近代日本の学校教育の歴史②（大正自由教育、教育の平等と個性に応じた教育） 大正自由教育を及川平治と木下竹次の実践と思想を検討しながら学ぶ。特に両者の能力観と学習班の作り方を検討し、教育の平等と能力別教育とについて検討する。また、大正自由教育の流れをくむ現代の学校を取り上げ、その可能性を考える。 【事前学習】テーマに関する用語を辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。また、きのくに子どもの村学園について３つ以上の文献で調べ、2000字程度のレポートを作成する。３０時間ほどの学修時間を必要とする。 第５回　現代日本の学校教育の歴史①（戦後教育改革、『山びこ学校』、民主主義と教育、教育基本法） 戦後教育改革から無着成恭の『山びこ学校』までの解説する。本当の民主教育とはどのようなものかを考える。 【事前学習】テーマに関する用語を辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。 第６回　現代日本の学校教育の歴史②（教育内容の現代化） 日本における教育内容の現代化について学ぶ。水道方式、仮説実験授業を学ぶ。仮説実験授業の体験も行う。 【事前学習】テーマに関する用語を辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。 第７回　学習指導要領について（その歴史、2008年の改正と学力論争） 当初、2008年の学習指導要領の改正とその前提となる学力論争を解説する。PISAテスト、ゆとり教育について、議論する。 【事前学習】テーマに関する用語を辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。 第８回　教育課程をめぐる問題（教科書検定と歴史教育問題、教育行政の中立性） 学習指導要領とはどのようなものなのかを、その歴史をさかのぼり確認する。当初、「試案」であったものが法的拘束力を持つようになっていく過程も確認する。そして、教科書検定を検討し、教育行政の中立性という原理を確認する。 【事前学習】テーマに関する用語を辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。 第９回　教育課程をめぐる問題（小学校英語教育を考える） 2008年の学習指導要領の改正の目玉の一つである小学校英語教育の課題、問題点を確認し、その

	可能性について議論する。 【事前学習】テーマに関する用語を辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。 第１０回　教育方法をめぐる問題（アクティブラーニング、習熟度別授業など） 習熟度別授業の有効性をデータに基づいて検証する。またアクティブラーニングという考え方を理解する。 【事前学習】テーマに関する用語を辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。 第１１回　道徳教育の課題（「生命に対する畏敬の念」をめぐって） 道徳教育のテーマである「声明に対する畏敬の念」を育むための教材を検討する。人工中絶、人工授精、出生前診断、減数手術、借り腹などを検討する。 【事前学習】テーマに関する用語を辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。 第１２回　特別支援教育の課題（『五体不満足』、「合理的配慮」を考える） 特別支援教育の理念を乙竹洋匡氏の著書を通じて学ぶ。また現在の特別支援教育の制度について確認する。 【事前学習】テーマに関する用語を辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。 第１３回　生徒指導の課題（「いじめ問題」を考える） 「葬式ごっこ」という事例を検討し、いじめの構造を理解し、教師としてどのように対応するかを考える。 【事前学習】テーマに関する用語を辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。 第１４回　学級経営の課題（「学級崩壊」と「ゼロトレランス」を考える） 学級崩壊の状況を確認する。それに対する対応策として、ゼロトレランスという考え方と全国生活指導研究会の事例を比較検討する。 【事前学習】テーマに関する用語を辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。 第１５回　まとめ（子どもと貧困、学ぶ権利） 本講義のまとめ。授業内容の確認のための小テストを含む。 【事前学習】第１回から第１４回までのレジュメを各３０分ほど再読する（計１４時間） 【事後学習】テスト問題の復習を行う。（計２時間）
授業における具体的な特色や方法	１）アクティブ・ラーニングを促す取組【〇】 ２）情報リテラシーに関する科目【　】 ３）ICTの活用【　】 ４）初年次教育【　】
テキスト	講師が配布するレジュメ・資料をテキストとして用いる。
参考書	各回の授業で提示する。 『沖縄で教師をめざす人のために』（上地完治・他編、共同出版） 『やさしい教育原理 新版補訂版』（田嶋一・他著、有斐閣アルマ） 『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示　文部科学省） 『高等学校学習指導要領』（平成30年3月公示予定　文部科学省）
評価方法	平常点（６０％）、テスト（３０％）、レポート（１０％）。 平常点は、授業での課題点であり、発言内容、授業態度も含まれる。
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀（A）90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優（B）80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良（C）70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可（D）60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可（F）60点未満：到達目標を達成していない 欠（K）　－　：試験欠席・レポート未提出・出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【ＤＰ 1～4との関連】 〇 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること .. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること 〇 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	教職科目である。教員になる強い意志を持ち参加すること。
オフィスアワー	月曜日の昼食時間と３時間目　照屋研究室
課題に対するフィードバック方法	課題はコメントを付し、授業中に返却する。

講義科目名称：　教職の意義　　　　　　　　　　　　授業コード：

英文科目名称：　Principles of Teaching

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	１年	2単位(2-0)	教職科目
担当教員			
嘉納　英明			
授業形態：講義	ナンバリング：TTC101		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 教職の意義、教員の役割、職務内容を理解し、教員になるための心構えをつくる。 【到達目標】 〇現代の教員に求められる基礎的な資質能力や教員の職務の全体像及び研修の意義や制度上の位置付けについて理解することができる。 〇教員に課せられる服務上・身分上の義務及び身分保障を理解することができる。 〇校内の教職員や多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解することができる。
授業の概要	「教職の意義」は、１年次の教職科目である。受講生は、小学校から高校まで学校教育と関わってきたが、教職の世界について知っているようで知らない分野も多々ある。この講義では、教職の意義や教員の職務内容等を学び、公務員としての教員の制度上の位置づけや身分保障、学校における役割について、学生の主体的な参加によって授業を創りたいと考えている。なお、17年半、国公立の小学校における教員経験のある者が、その経験を活かして、「教職の意義」の内容を構成する①教員の役割、②職務内容の理解、③教員になるための心構えについて講義する。
授業計画	第１回　講義の概要説明（授業の目的、シラバス、授業の方法、テキスト、登録） 登録調整をし、授業の目的や内容、進め方、テキストについて説明する。 [事前学習]教職の意義のシラバスをよく読むこと。 [事後学習]講義内容をノートにまとめ、資料等は適宜ノートに張り付ける。疑問点を整理する。 第２回　現代社会における教職の意義 教職は子どもの生きる力を培い、充実した人生と社会生活をもたらすとともに、国家社会の次代の担い手を育成するという使命をもつ職業であることを解説する。＜講義・グループワーク＞ [事前学習]教職の意義のシラバスをよく読むこと。第1回目の資料を読み、理解すること。 [事後学習]講義内容をノートにまとめ、資料等は適宜ノートに張り付ける。疑問点を整理する。 第３回　教員の種類・役割と仕事の性格 現行の教育制度について学校教育法第１条（１条校）をもとに解説し、教員の種類と教科指導・教科外指導等について整理し、職場環境についても解説する。＜講義・グループワーク＞ [事前学習]教職の意義のシラバスをよく読むこと。１条校をしらべておくこと。 [事後学習]講義内容をノートにまとめ、資料等は適宜ノートに張り付ける。疑問点を整理する。 第４回　教員生活の1年間 4月から3月までの一年間を学級経営の視点や学年・学校行事から俯瞰し、教員生活のあり様について解説する。＜講義・グループワーク＞ [事前学習]教職の意義のシラバスをよく読むこと。学校行事の種類についてしらべておくこと。 [事後学習]講義内容をノートにまとめ、資料等は適宜ノートに張り付ける。疑問点を整理する。 第５回　教員の仕事と専門性Ⅰ（子ども理解と学級経営） 子ども理解と学級経営は、担任と子どもとの関係性構築の上でも重要なことである。「子どもを理解するとはどのようなことか」「望ましい学級経営とはどのようなものか」ついて考える。＜講義・グループワーク＞ [事前学習]教職の意義のシラバスをよく読むこと。学級経営とは何か、事前に調べておくこと。 [事後学習]講義内容をノートにまとめ、資料等は適宜ノートに張り付ける。疑問点を整理する。 第６回　教員の仕事と専門性　Ⅱ（教科指導） 教員の主たる仕事は、教科を指導することである。児童生徒にとって「わかる授業」「楽しい授業」を創るためには専門性に裏付けられた教材開発と授業展開、評価方法が求められる。授業事例を紹介しながら、「教科指導とは何か」について解説する。＜講義・グループワーク＞ [事前学習]教職の意義のシラバスをよく読むこと。教材開発とは何か、調べておくこと。 [事後学習]講義内容をノートにまとめ、資料等は適宜ノートに張り付ける。疑問点を整理する。 第７回　教員の仕事と専門性　Ⅲ（特別活動・生徒指導） 特別活動とは学校生活の中で児童・生徒による集団的な取組みを総称し、生徒指導は児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めるように指導、援助するものである。講義では、学生の経験を報告し合いながら、特別活動と生徒指導について整理する。＜講義・グループワーク＞ [事前学習]教職の意義のシラバスをよく読むこと。特別活動の特色を調べておくこと。 [事後学習]講義内容をノートにまとめ、資料等は適宜ノートに張り付ける。疑問点を整理する。 第８回　教員の仕事と専門性　Ⅳ（進路指導・教育相談） キャリア教育の視点に立脚した進路指導や児童生徒の学校生活における学習相談、生活相談等を包括した教育相談について解説する。＜講義・グループワーク＞ [事前学習]教職の意義のシラバスをよく読むこと。キャリア教育、進路指導、教育相談の違いを調べておくこと。

	[事後学習]講義内容をノートにまとめ、資料等は適宜ノートに張り付ける。疑問点を整理する。 第９回　教員の仕事と専門性　Ｖ（保護者・地域・関係機関との連携） 家庭教育支援が求められている昨今、保護者・地域・関係機関との協力と連携は益々重要視されている。事例を紹介しながら、成果と課題を解説する。＜講義・グループワーク＞ [事前学習]教職の意義のシラバスをよく読むこと。沖縄県の家庭教育支援について調べておくこと。 [事後学習]講義内容をノートにまとめ、資料等は適宜ノートに張り付ける。疑問点を整理する。 第１０回　学校における教職員の連携・協働 チーム学校とは、校長のリーダーシップのもとで、学校の資源が一体的にマネジメントされ、教職員や学校内の多様な人材が、それぞれの専門性を生かして児童生徒に必要な資質・能力を確実に身に付けさせることができる学校のことである。事例を紹介しながら解説する。＜講義・グループワーク＞ [事前学習]教職の意義のシラバスをよく読むこと。チーム学校の意味を、文科省のHPで調べておくこと。 [事後学習]講義内容をノートにまとめ、資料等は適宜ノートに張り付ける。疑問点を整理する。 第１１回　教員の職場環境 校務分掌を含む学校の基本的な組織について概説し、教育機関としての学校のあり方について解説する。＜講義＞ [事前学習]教職の意義のシラバスをよく読むこと。公務分掌の種類について事前に調べておくこと。 [事後学習]講義内容をノートにまとめ、資料等は適宜ノートに張り付ける。疑問点を整理する。 第１２回　教員の任用と服務 　教員の服務・身分保障と研修について、主に、地方公務員法と教育公務員特例法の関連条文を紹介し、事例を紹介しながら解説する。＜講義＞ [事前学習]教職の意義のシラバスをよく読むこと。地方公務員法、教特法の概略をつかんでおくこと。 [事後学習]講義内容をノートにまとめ、資料等は適宜ノートに張り付ける。疑問点を整理する。 第１３回　教員に求められる資質能力 教員に求められる資質能力（教職に対する強い情熱、教育の専門家としての確かな力量、総合的な人間力）を文科省の関連資料をもとに議論し、整理する。＜講義・グループワーク＞ [事前学習]教職の意義のシラバスをよく読むこと。教員の資質能力について、事前に調べておくこと。 [事後学習]講義内容をノートにまとめ、資料等は適宜ノートに張り付ける。疑問点を整理する。 第１４回　教員養成と教職課程 現行の日本の教員養成制度と教職課程について概説し、教職大学院の設置状況、これをめぐる諸問題についても解説する。＜講義＞ [事前学習]教職の意義のシラバスをよく読むこと。教職課程の概要をつかんでおくこと。 [事後学習]講義内容をノートにまとめ、資料等は適宜ノートに張り付ける。疑問点を整理する。 第１５回　教員の採用選考 　全国的な教員採用選考試験の動向、選考方法等について解説する。＜講義＞ [事前学習]教職の意義のシラバスをよく読むこと。採用試験のあらましを調べておく。 [事後学習]講義内容をノートにまとめ、資料等は適宜ノートに張り付ける。疑問点を整理する。 第１６回　定期試験 授業の評価として、定期試験を実施する。 [事前学習]これまでの「教職の意義」の内容をまとめ、試験に備える。 [事後学習]テストをふりかえる。
授業における具体的な特色や方法	配布資料をよく読み、その回の学習内容（知識）を確認する。
テキスト	配布資料、学んだ内容を読み直し、整理する。
参考書	特に、ありません。 授業の中で、適宜、紹介します。
評価方法	授業への参加度、授業態度、レポート、期末試験によって総合的に評価する。 試験：70％　態度・演習・発表・参加度：30％
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 　秀（A）90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 　優（B）80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 　良（C）70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 　可（D）60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 　不可（F）60点未満：到達目標を達成していない 　欠（K）　－　：試験欠席・レポート未提出・出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【ＤＰ 1～4との関連】 〇 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること .. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること 〇 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること 〇 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	１「教職の意義」は、教職科目の必修科目であり、今後の教職課程履修の出発点である。真摯な態度で授業に臨んでほしい。やむを得ず欠席する時は事前に欠席届を提出すること。 ２　配布資料をきちんとファイルしておくこと。 ３　板書、パワポの内容は、ノートに丁寧にまとめるようにして下さい。紙媒体の資料は、最低限にしたいと考えています。

オフィスアワー	授業終了後に質問を受付けます。
課題に対する フィードバック方法	毎回、振り返りシートを回収し、次の時間に質問等に対応している。 課題やプリントは、評価して返却する。

講義科目名称： 教育の制度　　　　授業コード：

英文科目名称： Educational Systems

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	２年	2単位(2-0)	教職科目
担当教員			
照屋　信治			
授業形態：講義	ナンバリング：TTC202		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 現代公教育制度の意義、原理及び構造について、その法的及び制度的仕組みに関する基礎的知識を身に付け、そこに内在する課題を理解する。また、学校安全、学校と地域との連携についての理解を深める。 【到達目標】 ①公教育の原理及び理念を理解している。②公教育制度を構成している教育関係法規を理解している。③教育制度を支える教育行政の理念及び仕組みを理解している。④教育制度をめぐる諸課題について例示することができる。⑤地域との連携及び協働による学校教育活動の意義並びに方法を理解している。⑥地域との連携を基とする開かれた学校づくりが進められてきた経緯を理解している。⑦学校の管理下で発生する事件、事故及び災害の実情を踏まえ、学校保健安全法に基づき、危機管理並びに事故対応を含む学校安全の必要性を理解している。⑧生活安全、交通安全及び災害安全等の各領域の安全管理並びに安全教育の両面から具体的な取組を理解している。
授業の概要	上記のテーマや到達目標を達成するため、具体的な事例として、以下の問題群を検討してゆく。八重山教科書問題、朝鮮学校高校授業料無償化問題、学校選択制度、学区制の問題、沖縄県の高校再編問題、七生養護学校の性教育裁判、子どもと貧困など。授業方法としては、授業の前半は講師による問題の解説をおこない、後半は学生による意見交換・議論・課題作成などを行う。
授業計画	第１回　七生養護学校の性教育裁判について（オリエンテーション、教育行政の中立性について） 講義の概要説明、教育の制度を学ぶ意義、評価の方法、レポートのタイトルなどについて伝える。七尾養護学校の事例を取り上げ、教育行政の中立性について確認する。 【事前学習】テーマに関する用語を、文献、辞書、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。 第２回　八重山教科書問題を考える―育鵬社公民教科書を読む―①（教科書採択制度について） 八重山教科書問題の概要を説明し、教科書の広域採択制度の意義と課題を確認する。それと同時に、問題となった育鵬社と東京書籍の教科書を読み比べてみる。 【事前学習】テーマに関する用語を、文献、辞書、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。 第３回　八重山教科書問題を考える―教育委員会の役割を学ぶ―②（教育委員会制度について） 八重山教科書問題の論点の一つに教科書を採択する権限がどこにあるのかという点があった。その点を確認しつつ、教育委員会制度の意義について確認する。教育委員会制度の改正の経緯と眼目を理解する。 【事前学習】テーマに関する用語を、文献、辞書、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。 第４回　2007年の沖縄県民大会を考える（教科書検定制度について） 2007年の歴史教科書をめぐる沖縄県民集会の経緯を確認し、教科書検定制度の歴史と課題を確認する。国定教科書制度、検定制度、自由採択など各国の状況も確認する。 【事前学習】テーマに関する用語を、文献、辞書、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。 第５回　学習指導要領について（その歴史、法的拘束力について） 学習指導要領について学ぶ。学習指導要領の歴史的な背景を確認し、「試案」から「告示」へ、各回の改定の傾向などについて学ぶ。特に、2008年改定の学習指導要領の内容を確認する。 【事前学習】テーマに関する用語を、文献、辞書、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。 第６回　アメラジアンの教育権について（教育基本法を考える） アメラジアンスクール・イン・オキナワの事例を検討し、多文化共生教育にとどまらず、ダブルの教育権について考える。 【事前学習】テーマに関する用語を、文献、辞書、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。また、アメラジアンスクール・イン・オキナワに関する文献を３つ以上調べ、2000字程度のレポートにまとめる。３０時間程度の学修時間を要する。 第７回　在日コリアンの教育をめぐって①（教育財政、高校授業料無償化について） 高校授業料無償化の意義と課題を考える。朝鮮学校をその制度の対象から除外したことの問題を確認しつつ、同制度の意義を理解する。 【事前学習】テーマに関する用語を、文献、辞書、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。 第８回　在日コリアンの教育をめぐって②（在日コリアンと学校の歴史的経緯） 戦後日本の在日コリアンの教育を概観することにより、日本の教育制度の問題点を確認する。多文化共生教育の必要性を理解する。 【事前学習】テーマに関する用語を、文献、辞書、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。 第９回　在日コリアンの教育をめぐって③（多文化共生教育を保障する制度） 多文化共生社会の実現のために学校制度に求められていることを検討する。在日コリアンをはじめ、日本におけるマイノリティの教育権を確認し、具体的な事例を紹介する。 【事前学習】テーマに関する用語を、文献、辞書、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。

	第１０回　公立小中学校の学校選択制度を考える（学校選択制度について） 新自由主義的教育改革の有効性を検討する。具体的には、公立小中学校の学校選択制度について取り扱う。 【事前学習】テーマに関する用語を、文献、辞書、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。 第１１回　高校入試を考える―全入をどう考えるか―（６・３・３制度を考える） 中学校と高校の接続の問題、６・３・３・の教育制度の問題点を、各国との比較や研究者の意見を吟味つつつ考察する。 【事前学習】テーマに関する用語を、文献、辞書、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。 第１２回　沖縄県の公立高校再編計画を考える（学区制度について） 戦後教育改革で、新制高校設置の原理の一つとして小学区制が採用された。その意義を確認しつつ、近年の学区制の拡大が何をもたらすのかを理解する。 【事前学習】テーマに関する用語を、文献、辞書、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。 第１３回　子どもと貧困（その概略、子どもを支える仕組み、学校と地域の連携） 教育権の保障について学ぶ。６人に１人の子どもが相対的な貧困の状況にあるという状況を確認し、日本国憲法第26条の意義を再確認する。 【事前学習】テーマに関する用語を、文献、辞書、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。 第１４回　学校安全について（学校での事故と訴訟、学校の取り組み） 学校安全について考える。学校での事故の事例を取り上げ、その訴訟の結果を確認する。そのうえで、学校や教員に求められている取り組みを考える。 【事前学習】テーマに関する用語を、文献、辞書、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。 第１５回　全体のまとめ（大阪の教育行政基本条例を考える） 競争と教育の関係について確認しながら、本講義のまとめを行う。授業内容確認のための小テストも行う。 【事前学習】テーマに関する用語を、文献、辞書、ネット等で調べる。授業のプリント１４回分を各１時間かけ復習する。計１４時間程度の学修を行う。 【事後学習】テストの復習を行う（２時間程度）
授業における具体的な特色や方法	１）アクティブ・ラーニングを促す取組【　】 ２）情報リテラシーに関する科目【　】 ３）ICTの活用【　】 ４）初年次教育【　】
テキスト	教師作成のレジュメをテキストとして用いる。
参考書	参考書等は各回の授業で提示する。 『沖縄で教師をめざす人のために』（上地完治・他編、共同出版） 『新しい時代の教育制度と経営』（岡本 徹、佐々木司著、ミネルヴァ書房） 『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示　文部科学省） 『高等学校学習指導要領』（平成30年3月公示予定　文部科学省）
評価方法	平常点（６０％）、テスト（３０％）、レポート（１０％）。 平常点は、授業での課題点であり、発言内容、授業態度も含まれる。
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀（A）90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優（B）80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良（C）70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可（D）60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可（F）60点未満：到達目標を達成していない 欠（K）　－　：試験欠席・レポート未提出・出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【ＤＰ 1～4との関連】 ○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること .. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ○ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	１　履修要件として教育の原理を履修済みであること。 ２　「教職の基礎理論」に関する科目である。 ３　教師になる強い意志を持って履修すること。欠席せず皆出席すること。 止むを得ず欠席する時は事前に欠席届を提出する
オフィスアワー	（仮）水曜日と木曜日の昼食時間　照屋研究室
課題に対するフィードバック方法	課題はコメントを付し、授業中に返却する。

講義科目名称： 教育心理　　　　　　　　　　　　　　　　授業コード：

英文科目名称： Educational Psychology

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	２年	2単位(2-0)	教職科目

担当教員
松田盛雄・廣瀬等

授業形態：講義	ナンバリング：TTC201		

添付ファイル

授業のテーマ及び到達目標	①テーマ：教育心理学の理論と実際 ②到達目標 1) 教育心理学的視点から「授業」や「教育活動」を分析し、効果的指導方法を創意工夫できる。 2) 各時期における発達特性を理解し、発達的視点から学級経営や生徒指導等に活用できる。 3) 動機づけなどの概念を理解し、自主的な学習を促す手法など具体的場面で活用できる。 4) 学習に関する新しい評価法を習得し、個々の生徒の特性に応じた学習成果を評価できる。
授業の概要	教育活動を理解する上で重要な生徒の心身の発達及び学習の過程について、発達段階の心理的特性を踏まえて教育活動を支援するための知識や心理的援助技法を紹介する。また、「やる気の育成」「新しい評価法の実践」「不適応を呈する子どもの指導」などについて最近の研究に関する情報を提供し、検討する。 また、担当教員（松田盛雄）の少年鑑別所等矯正施設で心理専門職として勤務した実務経験を活かし、非行・犯罪行動への対応等、実践上の課題を踏まえた具体的な事例を提供・解説し、生徒の心理的特性の理解と支援の方法を講義する。
授業計画	第１回　ガイダンス：「教育心理学」という授業について（担当：松田盛雄） 【事前学習】テキストpp. 9～20を読み、教育心理学の研究方法を理解する。 【事後学習】心理学の各研究方法について特徴をまとめる。 第２回　発達とは何か（発達段階と発達課題）（担当：松田盛雄） 【事前学習】授業前にテキストpp. 21～38を読み、発達段階と発達課題について調べる。 【事後学習】発達課題に基づき、自分の体験を振り返り文章でまとめる。 第３回　知的能力の発達（発達と測定、学力と創造性）（担当：松田盛雄） 【事前学習】授業前にテキストpp. 121～138を読み、知的能力と創造性の関係を調べる。 【事後学習】創造性とは何かについて考え方をまとめる。 第４回　社会性の発達（道徳性、親子関係、仲間関係）（担当：松田盛雄） 【事前学習】授業前にテキストpp. 155～175を読み、愛着形成の発達について調べる。 【事後学習】愛着形成に関して自分の親子関係を振り返り、文章にして提出する。 第５回　学級集団の心理学（教師との関係、集団構造）（担当：松田盛雄） 【事前学習】授業前にテキストpp. 177～189を読み、学級集団の機能について調べる。 【事後学習】学級集団の凝集性といじめについてグループ討議の結果をまとめ提出する。 第６回　パーソナリティを理解する①（理論と測定方法）（担当：松田盛雄） 【事前学習】授業前にテキストpp. 139～153を読み、パーソナリティとは何かについて調べる。 【事後学習】自ら実施したパーソナリティ・テスト①の結果をまとめる。 第７回　パーソナリティを理解する②（学齢期の発達との関係）（担当：松田盛雄） 【事前学習】授業前に前回実施したパーソナリティ・テスト①の解釈をまとめておく。 【事後学習】実施したパーソナリティ・テスト②の結果を総合的にまとめ提出する。 第８回　不適応と心理臨床①（思春期に発生しやすい精神的問題）（担当：松田盛雄） 【事前学習】授業前にテキストpp. 191～201を読み、さまざまな精神的不調について調べる。 【事後学習】さまざまな精神的不調について、自分の体験をまとめて提出する。 第９回　不適応と心理臨床②（不登校・いじめ・非行と生徒指導）（担当：松田盛雄） 【事前学習】授業前にテキストpp. 201～214を読み、さまざまな学校不適応について調べる。 【事後学習】学校不適応について、自分の体験をまとめ提出する。 第１０回　学習の心理（学習理解と問題解決、アクティブラーニング）（担当：廣瀬等） 【事前学習】授業前にテキストpp. 59～74を読み、学習の方法やメカニズムについて調べる。 【事後学習】学習の方法やメカニズムについて、学んだことをまとめる。 第１１回　授業の心理学（教授スタイルと生徒の学び）（担当：廣瀬等） 【事前学習】授業前にテキストpp. 75～95を読み、授業における学習指導や学びついて調べる。 【事後学習】授業における学習指導や学びについて、学んだことをまとめる。 第１２回　学習意欲と学力（担当：廣瀬等） 【事前学習】授業前にテキストpp. 39～58を読み、動機づけや学習意欲について調べる。 【事後学習】動機づけや学習意欲について、学んだことをまとめる。 第１３回　教育評価（指導と評価の一体化）（担当：廣瀬等） 【事前学習】授業前にテキストpp.　97～120を読み、教育評価の考え方や方法について調べる。 【事後学習】教育評価の考え方や方法にについて、学んだことをまとめる。 第１４回　発達障害とは何か（学習障害、注意欠陥多動性障害、自閉症スペクトラム障害）（担当：松田盛雄） 【事前学習】授業前にテキストpp. 215～232を読み、さまざまな障害について調べる。 【事後学習】発達障害に関する自己チェックリストの結果をまとめ、自分の特徴を報告する。 第１５回　授業のまとめ（動機づけ、学習意欲、不適応等についてのグループ討議）（担当：松田盛雄） 【事前学習】講義全体を振り返り、特に印象に残った講義内容をまとめておく。 【事後学習】レポート課題「自己分析レポート」を退出する。 第１６回　定期試験

授業における具体的な特色や方法	1）アクティブ・ラーニングを促す取組【　】 2）情報リテラシーに関する科目　　　【　】 3）ICTの活用　　　　　　　　　　　【　】 4）初年次教育　　　　　　　　　　　【　】
テキスト	『たのしく学べる最新教育心理学ー教職にかかわるすべてのひとに』　櫻井茂男編　図書文化
参考書	『教職をめざすひとのためのー発達と教育の心理学』　富永大介他編著　ナカニシヤ出版 『生徒支援の教育心理学』　前原武子編著　北大路書房
評価方法	評価は、平常点（20%）、課題レポート（40%）、定期試験（40%）などを総合的に判断して行う。 平常点は授業への参加状況や参加意欲で評価する。課題レポートはコンピュータで作成し提出すること。
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K)　ー　：試験欠席・レポート未提出・出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【ＤＰ 1～4との関連】 ○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること .. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ○ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	特になし
オフィスアワー	松田：授業終了後に質問を受付けます。 廣瀬：授業終了後に質問を受付けます。
課題に対するフィードバック方法	・

講義科目名称： 特別支援教育概論　　　　　　　　　　授業コード：

英文科目名称： Special Needs Education

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	2年次	2単位（2-0）	教職科目
担当教員			
比嘉　浩			
授業形態：講義			
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	１．インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解している。 ２．発達障害や軽度知的障害をはじめとする、特別の支援を必要とする児童、生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を理解し、教育的支援の方法を例示することができる。 ３．視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難について基礎的な知識を身に付けている。
授業の概要	障害の概念を理解し、特殊教育から特別支援教育までの変遷とインクルーシブ教育システムを含む現在の特別支援教育の現状と課題を解説する。視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等の障害の理解と教育的支援の方法、さらに通常の学級にも在籍する発達障害のある子どもの理解と支援の方法について授業実践例や臨床的事例も交えながら授業を進める。また、障害はないが特別な教育的ニーズのある子どもの実態把握と対処方法について解説する。本授業では、適宜、視聴覚教材や補助資料を用いて授業内容を理解しやすいように工夫する。
授業計画	第１回　オリエンテーション・障害の概念（ICIDHからICFへ） 第２回　特殊教育から特別支援教育への歴史的変遷 第３回　特別支援教育の理念と制度 第４回　特別支援教育とインクルージョン（インクルーシブ教育システム） 第５回　視覚障害者の教育 第６回　聴覚障害者の教育 第７回　知的障害者の教育 第８回　肢体不自由者の教育 第９回　病弱者の教育 第10回　発達障害者の教育（自閉症スペクトラム障害） 第11回　発達障害者の教育（学習障害） 第12回　発達障害者の教育（注意欠陥／多動性障害） 第13回　「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置づけと内容 第14回　母国語や貧困により特別の教育的ニーズのある子どもの実態把握の方法と対応 第15回　不登校、引きこもり、非行などを含む「学校不適応」のある子どもの実態把握の方法と対応 第16回　定期試験
授業における具体的な特色や方法	１）アクティブ・ラーニングを促す取組【　】 ２）情報リテラシーに関する科目【　】 ３）ICTの活用【　】 ４）初年次教育【　】
テキスト	特に指定しません。適宜、自作の資料を用意することもあります。
参考書	『インクルーシブ教育時代の教員をめざすための特別支援教育入門』大塚玲　編著　萌文書林 『特別支援教育総論：インクルーシブ時代の理論と実践』川合紀宗・若松昭彦・牟田口辰己編著　北大路書房
評価方法	成績は学期末の試験で評価します。

評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀（A）90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優（B）80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良（C）70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可（D）60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可（F）60点未満：到達目標を達成していない 欠（K）　－　：試験欠席・レポート未提出・出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【ＤＰ 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること .. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	特になし
オフィスアワー	授業終了後に質問を受付ける。
課題に対するフィードバック方法	**

講義科目名称：　道徳教育の理論と方法　　　　　　　　　　授業コード：

英文科目名称：　Theories and Methods of Moral Education

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	３年	2単位(2-0)	教職科目

担当教員
照屋　信治

授業形態：講義	ナンバリング：TTC302		

添付ファイル

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 道徳教育の意義や原理を踏まえ、歴史と現代的課題を学び、道徳教育の実践者としての基礎を養い、学校教育における授業実践・教育実践の準備を行う。 【到達目標】 ①道徳教育の歴史や現代社会における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等）を理解している。②子供の心の成長と道徳性の発達について理解している。③学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解している。④学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解している。⑤学校における道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性を理解している。⑥道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴を理解している。⑦道徳科における教材の特徴を踏まえて、授業設計に活用することができる。⑧授業のねらいや指導過程を明確にして、道徳科の学習指導案を作成することができる。⑨道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方を理解している。⑩模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。	
授業の概要	主に日本の学校教育との関わりで道徳教育の歴史と理論を振り返り、道徳に関わる教育問題を検討し、学校における道徳教育実践を検討する。それらを通じて、道徳教育に関する基礎的な素養の獲得を目指す。そのうえで、学校教育の場における道徳指導、特別の教科である道徳の授業の指導案作成・模擬授業が行えるように、複数の教授法を学び、教材の特質を研究する。	
授業計画	第１回	授業の概要説明、道徳教育の体験を語り合う 本講義の概要説明。道徳教育はどうあるべきか。評価方法の確認。今まで受けてきた学校での道徳教育の経験をクラスメイトとシェアする。 【事前学習】自身が受けてきた道徳教育を振り返り、あるべき道徳の授業について話せるように準備をする。 【事後学習】レジュメを再読し、自分自身の意見をまとめる。
	第２回	同和（人権）教育を学ぶ①（その歴史と現状） 部落差別に関して学ぶ。道徳教育の大原則は他者の尊重であり、人権の尊重である。それが十全に保障されていない現状を学ぶ。 【事前学習】テーマに関する用語を、辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自分自身の意見をまとめる。
	第３回	同和（人権）教育を学ぶ②（多文化共生時代の道徳教育の在り方） 同和教育の実践を確認する。また、ロールプレイを用いたアクティビティを行う。 【事前学習】テーマに関する用語を、辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自分自身の意見をまとめる。
	第４回	道徳教育の歴史①（戦前の修身教育と教育勅語） 「教育勅語」に象徴される戦前の修身教育の在り方を理解する。その上で、現代の道徳教育がどのようにあるべきかを理解する。 【事前学習】テーマに関する用語を、辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自分自身の意見をまとめる。
	第５回	道徳教育の歴史②（戦後の道徳の教科化をめぐる議論） 1958年の「道徳の時間」の特設をめぐる議論を確認する。さらに近年の教科化をめぐる議論を理解する。 【事前学習】テーマに関する用語を、辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自分自身の意見をまとめる。
	第６回	学習指導要領と道徳教育―「愛国心」と道徳教育を考える 学習指導要領の道徳の内容と理念を確認したうえで、「我が国と郷土を愛し」という個所がなぜ議論の焦点となるのかを理解する。 【事前学習】テーマに関する用語を、辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自分自身の意見をまとめる。
	第７回	「心のノート」（私たちの道徳）の意義と問題点を考える 『心のノート』の作成経緯を理解し、その問題点を確認する。それと同時に『心のノート』を引き継いだ『私たちの道徳』の活用法を検討する。 【事前学習】テーマに関する用語を、辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自分自身の意見をまとめる。
	第８回	いじめ問題を考える 「葬式ごっこ」を検討し、「いじめの四層構造」を理解し、学級担任として、どのような指導が求められているのかを確認する。 【事前学習】テーマに関する用語を、辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自分自身の意見をまとめる。
	第９回	〈生・性・死〉の授業の意義を考える 「生命に対する畏敬の念」はどのようにして育まれるのかを考える。ニワトリを殺して食べる授業実践を検討する。 【事前学習】テーマに関する用語を、辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自分自身の意見をまとめる。
	第１０回	道徳の指導案の作成について 道徳の学習指導案の作成方法を教授し、実際に学習指導要領を作成する。学期末に提出する。

	【事前学習】テーマに関する用語を、辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】道徳の指導案を作成し提出してもらう。提出前に、授業外でクラスメイトとミニ模擬授業をおこなってもらう。指導案の作成のための調べる作業、作成作業、ミニ模擬授業で３０時間ほどの学修時間を必要とする。 第１１回　道徳教育と構成的グループエンカウンター 人間関係づくりの手法として構成的グループ・エンカウンターの有効性が指摘されている。構成的グループ・エンカウンターの理解と道徳教育での活用法を学ぶ。 【事前学習】テーマに関する用語を、辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】構成的グループエンカウンターを用いた授業案を複数読んでもらう。 第１２回　道徳性の発達（コールバーグ）とモラルジレンマ授業①（理論） 道徳性の発達理論の一つとしてコールバーグが提唱したモラルジレンマ授業の理論を理解する。また、代表的な授業を体験してみる。 【事前学習】テーマに関する用語を、辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】モラルジレンマ教材を複数目を通してもらう。 第１３回　道徳性の発達（コールバーグ）とモラルジレンマ授業②（教育実践例） コールバーグのモラルジレンマ授業への批判を踏まえたうえで、別のモラルジレンマの授業を体験してもらい、その授業検討会を行う。 【事前学習】テーマに関する用語を、辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】モラルジレンマ教材を複数目を通してもらう。 第１４回　学生による模擬授業と反省会①（構成的グループエンカウンター） 学生に構成的グループ・エンカウンターを用いた道徳授業の模擬授業を行ってもらう。また、指導案を読み込み、自分なりにどう改良できるか考えてみる。 【事前学習】テーマに関する用語を、辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】構成的グループエンカウンターを用いた授業案を複数読んでもらう。 第１５回　学生による模擬授業と反省会②（モラルジレンマの授業） 学生にモラルジレンマの模擬授業を行ってもらう。授業者である学生は、開講直後より教員の指導を受け授業づいくりをしてもらう。他の学生には、生徒役で体験してもらう。また、本講義のまとめとして、授業内容確認のための小テストを行う。 【事前学習】これまでの授業のレジュメを各１時間程度かけ再読し、小テストに備えてもらう。１４時間程度の学修時間を必要とする。 【事後学習】小テストの復讐をしてもらう（２時間程度）
授業における具体的な特色や方法	１）アクティブ・ラーニングを促す取組【　】 ２）情報リテラシーに関する科目【　】 ３）ICTの活用【　】 ４）初年次教育【　】
テキスト	講師が配布する資料、プリントをテキストとして用いる。
参考書	柴田義松(編著)　『道徳育～理論と実践』学文社 『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示　文部科学省） 『高等学校学習指導要領』（平成30年3月公示予定　文部科学省）
評価方法	授業中の課題点（５５%）（授業態度、発言の質等含む）、テスト点（３０%）、レポート点（１５%）
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K)　－　：試験欠席・レポート未提出・出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【ＤＰ 1～4との関連】 ○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること .. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ○ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	１　履修要件として、教育の原理、教育の制度を履修済みであること。 ２　「教育課程及び指導法」に関する科目である。教師になる強い意志を持って履修すること。 出席状況等を十分加味する。やむを得ず欠席する時は事前に欠席届を提出する。 ３　私語、居眠り、内職など、教師としてふさわしくない授業態度の者には単位を認定しない。
オフィスアワー	月曜日の昼食時間と３時間目　照屋研究室
課題に対するフィードバック方法	課題はコメントを付し、授業中に返却する。

講義科目名称：　特別活動及び総合的な学習の時間の指導法　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	3年次	2単位（2-0）	教職科目
担当教員			
芳澤　拓也			
授業形態：講義	ナンバリング：		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	テーマ：集団的な学びと探究的・総合的な学び、その計画と指導 （１）学習指導要領における特別活動及び総合的な学習（探究）時間の目標及び主な内容を知り、理解することができる。 （２）教育課程における特別活動及び総合的な学習（探究）の時間の位置づけと他教科等との関連を知り、解説することができる。 （３）学級活動・ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事等の特質と指導のあり方を知り、解説することができる。 （４）合意形成に向けた話合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を知り、例示することができる。 （５）主体的・対話的で深い学びを実現するような、総合的な学習（探究）の時間の単元計画を作成することの重要性とその具体的な事例を知り、例示することができる。 （６）探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立てを知り、解説することができる。 （７）特別活動及び総合的な学習（探究）の時間における評価の方法と、これを改善へ結びつけることの重要性を理解することができる。 （８）特別活動における家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を知り、例示することができる。
授業の概要	ここでは、「なすことによって学ぶ」（特別活動）、「探究的・教化横断的」に学ぶ（総合的な学習（探究）の時間）という学習論・指導原理を学んでいく。具体的には、「なすこと」による学習、「探究的・教化横断的な学び」が、①学校教育の中で歴史的にどのように位置づけられてきたか、②学習指導要領においてどのように位置づけられているか、③他教科や地域との関わりを含めつつ、どのように計画、実践、評価するものとして構想されているのか、具体的な事例を参照しながら学んでいく。こうした学習を通じて、「なすこと」による学習、「探究的・教化横断的な学び」が、近年展開されているグローバル化する世界・社会に対応するために求められる資質・能力論との関係で再構成されつつあることを理解しつつ、集団や社会の中で通用する自分づくりのあり方について考察していきたい。
授業計画	第１回　「特別活動及び総合的な学習の時間の指導法」という授業について－集団的な学びと探究的・教科横断的な学び、特別活動、総合的な学習（探究）の時間の歴史－ 【事前学習】 「特別活動」「総合的な学習の時間の指導法」とはどのような時間なのか、イメージしてきてください。 【事後学習】 「特別活動」「総合的な学習の時間の指導法」の学習の方法論をまとめてください。 第２回　学習指導要領における特別活動の位置づけ－目標、内容、3つの領域と育成が目指される資質・能力 【事前学習】 「学習指導要領」における「特別活動」の項目に目を通してください。 【事後学習】 「学習指導要領」にて「特別活動」の項目を復習してください。 第３回　教育課程における特別活動－年間計画、実践・取組の評価、その改善－ 【事前学習】 行事に注目して、それが予定されている時期を把握してください。 【事後学習】 行事の意味について、行事そのものと開かれる時期の両面からとらえなおしてください。 第４回　教室内の人間関係と特別活動 【事前学習】 生徒達は教室内でどのようなグループを作っていたか、思い出してみてください。

		【事後学習】 生徒達がつくる集団の特質について、整理してください。
	第５回	１年間の見通しをもった学級経営、行事 【事前学習】 「強いいじめ」が出てくるのは、何月あたりか、学校体験を思い起こしながら、考えてください。 【事後学習】 1年間の学級経営の見通しを整理してください。
	第６回	年間（行事）計画と生徒会の役割 【事前学習】 生徒会は何を求められているのか、「学習指導要領」で確認してください。 【事後学習】 実践例に見られる生徒会活動の意味を捉えなおしてください。
	第７回	学級活動指導案の実際 【事前学習】 学級活動では、何が求められているか「学習指導要領」で、確認してください。 【事後学習】 学級活動指導案の書き方について、自分なりに整理してください。
	第８回	ノンエリートのキャリア形成と学校における学び、指導の意味 【事前学習】 「ノンエリート」とは、何か考えてきてください。 【事後学習】 学校の役割について、「ノンエリートのキャリア形成」の視点から捉えなおしてください。
	第９回	学習指導要領における総合的な学習（探究）の時間の位置づけ－目標、内容、育成が目指される資質・能力 【事前学習】 「学習指導要領」にて「総合的な学習の時間」の項目を確認してください。 【事後学習】 「学習指導要領」にて「総合的な学習の時間」の項目を再確認しつつ、その学習法の特徴を自分なりに整理してください。
	第10回	教育課程における総合的な学習（探究）の時間－年間計画・他教科とのかかわり－ 【事前学習】 自身の「総合的な学習の時間」の記憶を、掘り起こしていてください。 【事後学習】 「総合的な学習の時間」を、「計画」の観点からとらえなおしてください。
	第11回	総合的な学習（探究）の時間における学びのプロセス 【事前学習】 「総合的な学習の時間」の学習法について整理していてください。 【事後学習】 「総合的な学習の時間」の学びに対し、授業者になにが求められるか、整理してください。
	第12回	探究的・教科横断的な学びにおける指導、教材・教具、評価

	【事前学習】 「総合的な学習の時間」を指導する際、授業者になにが求められるか、整理してください。 【事後学習】 「総合的な学習の時間」において、「評価」を念頭に置いたとき、何を意識すべきか整理してください。 第13回　キャリア教育と総合的な学習（探究）の時間 【事前学習】 「キャリア」とは何か、自分の言葉でまとめてきてください。 【事後学習】 「キャリア」の学習において、何を学びたいか、何を学ぶべきか、整理してください。 第14回　総合的な学習（探究）の時間の実際 【事前学習】 事前に提示される課題について、調べてきてください。 【事後学習】 課題について、さらに調べてきてください。 第15回　生徒の学びと総合的な学習（探究）の時間 【事前学習】 自身が調べてきたことを、整理してきてください。 【事後学習】 「総合的な学習の時間」の学習法、指導法に照らし合わせて、自身の学びを捉えなおしてください。 第16回
授業における具体的な特色や方法	１）アクティブ・ラーニングを促す取組【　○　】 ２）情報リテラシーに関する科目　　　【　】 ３）ICTの活用　　　　　　　　　　　　【　○　】 ４）初年次教育　　　　　　　　　　　【　　】
テキスト	『中学校学習指導要領』（平成29年3月公示　文部科学省） 『高等学校学習指導要領』（平成30年3月公示予定　文部科学省）
参考書	『中学校学習指導要領解説－特別活動編－』(平成29年7月公表　文部科学省) 『高等学校学習指導要領解説－特別活動編－』(平成30年3月公示予定　文部科学省) 『中学校学習指導要領解説－総合的な学習の時間編－』(平成29年7月公表　文部科学省) 『高等学校学習指導要領解説－総合的な探究の時間編－』(平成30年3月公示予定　文部科学省)それ以外の参考文献は、授業の中で適宜紹介します。
評価方法	提出物（①学級活動指導案、②年間行事計画、③総合的な学習の時間の年間計画、④総合的な学習の時間の単元計画等）40%、レポート50%、平常点10%
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀（A）90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優（B）80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良（C）70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可（D）60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可（F）60点未満：到達目標を達成していない 欠（K）　－　：試験欠席・レポート未提出・出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【ＤＰ 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること .. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○　3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ○ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	グループ討議を行う予定です。積極的な参加をお願いします。
オフィスアワー	（例）授業終了後に質問を受け付けます。
課題に対するフィードバック方法	評価後、返却する。

講義科目名称： 教育方法・教育課程　　　　　　　　　授業コード：

英文科目名称： Curriculum and Instructional Methodology

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	3年次	2単位 (2-0)	教職科目
担当教員			
森本　雅人・小嶋　季輝			
授業形態：講義	ナンバリング：TTC301		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	・教育方法に関わる基礎的な知見を獲得し、授業を構想・展開する方法的力量の基礎的な力を身に付ける。 ・教育課程編成の基本原理を理解し、生徒や学校・地域の実態を踏まえた教育課程や指導計画を理解する
授業の概要	・これまでの授業研究の歴史と教師教育、教育方法について学び、実践的な授業力を養う。 ・学習指導要領の変遷について、それぞれの時代背景や社会問題と照らし合せ、日本の教育課程の特質を理解する。
授業計画	第１回　学力の定義について、沖縄の学力の現状について（担当：森本雅人） 第２回　学力論争について、広岡良蔵、勝田守一、中内敏夫からみる学力観（担当：森本雅人） 第３回　PISA調査からみる新しい学力観（担当：森本雅人） 第４回　仮設実験授業、水道方式、教育技術法則化運動（TOSS）、有田和正の実践授業（担当：森本雅人） 第５回　ジグソー学習理論及び実践、モラルジレンマによるディベート授業（担当：森本雅人） 第６回　学力形成とパフォーマンス評価（担当：森本雅人） 第７回　新聞、ICTを活用した授業（担当：森本雅人） 第８回　学習指導案の構成、発問、板書、教材について（担当：森本雅人） 第９回　学習指導案と模擬授業、授業検討会について（担当：森本雅人） 第10回　教育課程編成の意義（担当：小嶋季輝） 第11回　教育課程編成について①昭和２２～４３年版学習指導要領　教育の現代化（担当：小嶋季輝） 第12回　教育課程編成について②昭和５２～平成元年版学習指導要領　ゆとり教育、新学力観（担当：小嶋季輝） 第13回　教育課程編成について③平成１０年度版、新学習指導要領（担当：小嶋季輝） 第14回　カリキュラム・マネジメントの意義（担当：小嶋季輝） 第15回　教育課程編成の計画、評価（学校評価）（担当：小嶋季輝）
授業における具体的な特色や方法	１）アクティブ・ラーニングを促す取組【　】 ２）情報リテラシーに関する科目【　】 ３）ICTの活用【　】 ４）初年次教育【　】
テキスト	講義で必要なプリント・資料を配布
参考書	講義で紹介する。 中学校学習指導要領（平成29年3月告示　文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成30年3月公示予定　文部科学省）
評価方法	参加態度、発表、講義で使用するワークシート（７０％）、期末レポート（３０％）
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀（A）90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優（B）80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良（C）70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可（D）60点～70点未満：到達目標を最低限達成している

	不可（F）60点未満：到達目標を達成していない 欠（K）　－　：試験欠席・レポート未提出・出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【ＤＰ 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること .. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	特に無し
オフィスアワー	授業終了後に質問を受け付ける。
課題に対するフィードバック方法	**

講義科目名称：　生徒・進路指導論　　　　　　　　　　　　　授業コード：

英文科目名称：　Guidance

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	２年	2単位(2-0)	教職科目
担当教員			
新里　健			
授業形態：講義	ナンバリング：TTC204		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 生徒指導の基礎的な理論、実態、要因、指導の実際（事例の検討等）について学び、多様な個性をもつ生徒に対応するできる。 【到達目標】学校現場でのいじめや、不登校・引きこもり、非行などの生徒指導上の問題や、発達障害について学び、また、生き方支援という観点から進路指導を理解し、面接技法などを活用しながら、集団指導及び個別指導ができるようになる。
授業の概要	近年、学校での不登校、いじめ、非行等の教育問題が多発し、これまで以上に教師による生徒指導の必要性が叫ばれている。また、少子化や核家族などの要因から、子どもの基本的生活習慣の乱れや社会性の発達の遅れ、自立への遅れなどが指摘され、家庭教育や学校教育が深刻な問題となってきている。このような子どもの行動を予防・改善していくためには、教師が子どもの心を理解し、子どもと向き合うことが重要である。 本講義では、生徒指導の基礎的な理論や教育現場の指導の実際などについて紹介し、その対策を参加型授業で体験する。また、進路指導については、近年の中途退学を紹介しつつ、生徒に対する進路指導がどうあるべきか,　また、受講者自身の進路についてもどうあるべきか体験を通して学ぶ。
授業計画	第１回　本講義の説明、紹介 終戦から今日までの生徒指導の流れについて紹介する。社会や家庭の変化、所得倍増による豊かな生活を獲得した一方で、現代のような少子化や核家族化、人間関係の希薄さ等の問題を念頭にどう生徒を指導していくかについて考えさせる。 【事前学習】教育書や新聞などマスコミからの情報、また、文部科学省・県教育庁などの考え方について常に注目し、授業に参加すること。 【事後学習】授業で扱った生徒指導上の問題については、必ず再度振り返って学習すること。 第２回　生徒指導の意義と方法 教師は学級や学年という全体を見ながら、しかも、ひとり一人の生徒を見ていく、集団指導と個別指導という両面の指導を要求されること、また、どのように生徒への援助を行っていくかの方法についても、教授していく。 【事前学習】生徒指導の意義や方法について調べてくる。 【事後学習】集団指導と個別指導を振り返る。 生徒指導が全ての教科を通じて行われることの重要性を振り返って学習する。 第３回　問題行動の理論と実際：対応①生徒の不適応行動・不登校と引きこもり 不登校や引きこもりなどの生徒の不適応行動にして、その原因や教師の対応の仕方について紹介し、ケースを提示してグループで討議させ、教師としてどのような対応が望まれるか考えさせる授業とする。 【事前学習】不登校や引きこもりの現状について調べてくる。 【事後指導】不登校と引きこもりの生徒指導上の課題や対応の仕方を振り返って学習する。 第４回　問題行動の理論と実際・対応②－生徒の不適応行動・いじめ いじめの定義の変遷を示し、学校現場での過去のいじめ事件等を紹介する。そのうえで、授業では実際のケースを提示して、自分自身が教師ならば、どのような対応をするかについてグループのメンバーとの討議の中から考えさせる授業とする。 【事前学習】いじめとは何か、いじめの現状について調べてくる。 【事後学習】いじめの定義やいじめの構造について振り返って理解する。また、生徒指導上の課題や対応の仕方について授業を振り返って理解する。 第５回　問題行動の理論と実際・対応③－学校不適応（ADHD、アスペルガー症候群、学習障害） 学校不適応、特に学校現場で取り上げられる発達障害（ADHD、アスペルガー、学習障害など）について、その症状等を説明し、そのような障害を持つ生徒にどう接し、どう指導していくか、グループ討議の中から考えさせる授業とする。 【事前学習】発達障害とは何かについて調べてくる。 【事後学習】発達障害（自閉症、ＡＤＨＤ、アスペルガー症候群、学習障害）を理解し、その対応の仕方を振り返って理解する。 第６回　問題行動の理論と実際・対応④－基本的生活習慣と非行 子どものモデルとなるべき大人のライフスタイルの変化が子どもたちの生活にも変化を与え、様々な生活習慣上の問題を引き起こしている状況を紹介し、その生活上の問題にどう対処するかを考えさせる。また、非行（犯罪少年、触法少年、虞犯少年）については、その原因等についてグループ討議を通して考えさせる授業とする。 【事前学習】校則の是非や非行の原因について調べてくる。 【事後学習】生徒の基本的生活習慣の問題や非行の原因を理解し、その対応を振り返って理解する。 第７回　教育相談における個別指導の方法①閉じられた質問と開かれた質問 「閉じられた質問」と「開かれた質問」について、実際に面接場面を設定して、その質問の意味と使い方について実践形式で練習し、その技能を獲得する授業とする。

	【事前学習】生徒への効果的な面接方法にどういうものがあるか調べてくる。 【事後学習】閉じられた質問や開かれた質問の技法について、授業で行ったロールプレイを振り返って自ら練習し、その二つの質問の仕方を理解する。 第８回　教育相談における個別指導の方法②言い換え技法（パラフレーズ） 「言い換え技法（パラフレーズ）」の用語について説明し、どのようにその技法を使っていくかについて実践形式で練習し、その技能を獲得する授業とする。 【事前学習】パラフレーズ（言い換え技法）とはどういうものであるか調べてくる。 【事後学習】パラフレーズの方法を理解し、さらに、その技法を用いての面接を理解する。 第９回　教育相談における個別指導の方法③感情の反映（共感） 「感情の反映技法（共感）」の用語について説明し、生徒の感情に焦点を当てて面接を行うことの重要性について説明する。その用法については、実際の面接場面を設定して、実践形式で練習し、その技法を身につける授業とする。 【事前学習】「共感とは何か」について調べてくる。 【事後学習】生徒の感情に焦点に当てた、感情の反映技法を用いた面接を授業のロールプレイを振り返って理解する。 第１０回　生徒指導における集団指導の方法①言語・非言語コミュニケーション 私たち人間は、言語、あるいは、非言語の両方で（トータルで）コミュニケーションを行っていることを理解させ、受講者全体で実際にロールプレイを通じて、コミュニケーションのあり方を学ぶ授業とする。 【事前学習】集団指導と個別指導の違いについて調べてくる。 【事後学習】他者との言語及び非言語コミュニケーションの仕方について、授業のロールプレイを振り返って理解する。 第１１回　生徒指導における集団指導の方法③自尊感情を育てる 自尊感情が自分自身に対する評価と関わるものであること、また、自尊感情を高くすることが生徒の多くの面で重要なことであることを理解させ、受講者全体でのロールプレイを通して、生徒の自尊感情の向上の指導の仕方を学ぶ授業とする。 【事前学習】自尊感情の意味につぃて調べてくる。 【事後学習】自尊感情は自己評価のことであり、自尊感情の向上が生徒指導上重要であることを授業でのロールプレイを振り返って理解する。 第１２回　生徒指導におけ集団指導の方法④自己主張の仕方（アサーション・トレーンング） 生徒間の問題が生徒自身の主張の仕方に関係があることを理解し、どのようにすれば、自分も他者も大切にすることができるかという、主張の仕方を受講者全体で学ぶ授業とする。 【事前学習】自己主張の仕方にはどういうものがあるか調べてくる。 【事後学習】３つの自己主張の仕方、特に自他を大切にした主張の仕方について、ロールプレイを振り返って理解する。 第１３回　進路指導の理論と指導―進路選択と自分さがし ニートと言われる移行の困難な若者の問題や、今が楽しければいいといったタイプや引きこもって就職に結びつかないタイプなどの若者の問題を紹介し、受講者自身や生徒の進路選択についても考えさせる授業とする。 【事前学習】小・中・高等学校時代の自分自身の受けた進路指導について振り返って考えてくる。 【事後学習】進路選択の在り方や自分さがしについて授業を振り返って理解する。 第１４回　進路指導の理論と指導－キャリア教育 キャリア教育を単に就職や進学に結び付けるだけでなく、生徒自身がどのように生きていくかという視点を考えさせる授業とする。 【事前学習】生徒指導上のキャリアとは何か調べてくる。 【事後学習】生徒それぞれの生き方支援がどうあるべきか、授業を振り返って理解する。 第１５回　高等学校における中途退学・不本意進学問題　まとめ 毎年、沖縄県だけでも1,000人を超える高等学校の中途退学者がいることを踏まえ、どのようにすれば、中途退学に結びつかない指導の在り方が必要なのか考えさせる授業とする。 【事前学習】高等学校における中途退学の原因が何か調べてくる。 【事後学習】高等学校における中途退学の原因を学び、どういう指導の仕方で中途退学を減少できるか理解する。 第１６回　定期試験
授業における具体的な特色や方法	１）アクティブ・ラーニングを促す取組【〇】 ２）情報リテラシーに関する科目　【　】 ３）ICTの活用　【　】 ４）初年次教育　【　】
テキスト	授業の際にプリントを配布する。
参考書	宮下一博・河合荘子編著　『生きる力を育む生徒指導』　2011 北樹出版 新里健・島袋有子　『やってみよう　ソーシャル・スキル・トレーニング３３　学級経営に生かすＳＳＴ』2008 グリーンキャット 宮下一博・河野荘子編著　『生きる力を育む生徒指導』2005　北樹出版 平木典子　『アサーショントレーニングーさわやかな＜自己表現＞のために』2005 日本・精神技術研究所 マシュー・マッケイ、ピーター・Ｄ・ロジャース、ジュディス・マッケイ著　榊原洋一、小野次朗監修、新里健、足立佳美監訳、坂本輝世訳　『怒りのセルフコントロール一感情への気づきから効果的コミュニケーションスキルまで(When anger hurts-Quieting the storm within)』2011　明石書店
評価方法	評価は､授業内レポート､試験､授業への参加状況､授業への意欲･関心などを総合的に

	みて行う。レポートの課題は授業の際に指示する。3分の1以上を欠席した場合は、単位の取得は認められない。 期末テスト50％　課題レポート40％　授業態度10％
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 　　秀（A）90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 　　優（B）80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 　　良（C）70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 　　可（D）60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 　　不可（F）60点未満：到達目標を達成していない 　　欠（K）　－　：試験欠席・レポート未提出・出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【ＤＰ 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること .. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. ③ 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	教育心理を履修済みであることが好ましい。
オフィスアワー	授業や課題に関する問い合わせは、随時メールで行ってください。 メールアドレスは、初回の授業でお知らせします。
課題に対するフィードバック方法	提出された課題については、授業終了後にメールにて返却する。

講義科目名称： 教育相談の理論と方法　　授業コード：

英文科目名称： Theories and Methods of Educational Counseling

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	3年次	2単位（2-0）	教職科目

担当教員			
柳田　正豪			
授業形態：講義			
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 学校教育相談の役割、課題、そして取り巻く環境について学ぶ。 【到達目標】 スクールカウンセラーの役割・必要性に加え、教育相談を進める際の基礎的知識についても理解を深める。カウンセリングマインドを活かし教育相談に従事するスキルを学ぶ。
授業の概要	現在、学校の教育現場では、実にさまざまな問題が存在する。学力低下や学業不振に限らず、不登校、いじめ、うつ、自殺があり、さらには家庭内暴力等の社会的問題もある。こうした問題に対しての技術や知識を学ぶことは、現代の教員には必須であり、同時にそれはカウンセリングを学ぶことにもある。また青年期にみられる発達障害や精神疾患も学び、その症状・原因・対策を学ぶ。基本的なカウンセリングスキルを学び、お互いにカウンセリングのロールプレイも実践する。教員を目指す者は、生徒の心理的課題や教育的課題を捉えた上で、自らの課題に気づき、教育者としての資質を高める。
授業計画	第１回　教育相談における学校カウンセリングとは。自分自身を理解しよう。 授業のオリエンテーション。評価方法、求めていることを説明する。学校教育相談とスクールカウンセラーの違いについても説明する。 授業形態：講義 【事前学習】シラバスを読む 【事後学習】配布資料・教科書第1章を読む 第２回　学校教育相談とスクールカウンセラーの必要性 引き続き、学校教育相談とスクールカウンセラーの違い。それぞれの必要性と課題。 授業形態：講義 【事前学習】配布資料・第1章を読む 【事後学習】配布資料を読む。クイズに備える。 第３回　学校教育相談とスクールカウンセーの役割 学校教育相談の役割とスクールカウンセラーの役割について学ぶ。 授業形態：講義 【事前学習】配布資料を読む。 【事後学習】第４章前半を読む。クイズに備える。 第４回　学校における不適応行動とその理解および対応（１）発達障害 学校教育現場でよく見られる発達障害について学ぶ。自閉症、高機能広汎性発達障害、AD/HDやLDについて学ぶ。 授業形態：講義 【事前学習】第４章前半を読む。 【事後学習】第４章後半を読む。クイズに備える。 第５回　学校における不適応行動とその理解および対応（２）不安障害・感情障害 不安やストレスに起因する不適応行動や障害について学ぶ。社会恐怖症、強迫性障害、PTSD、チック、感情障害などについて学ぶ。 授業形態：講義 【事前学習】第４章後半を読む。 【事後学習】第３章を読む。クイズに備える。 第６回　学校における不適応行動とその理解および対応（３）いじめ・不登校・虐待・非行 生徒の抱える問題の理解と対応について学ぶ。不登校という問題の意味と理解を発達的視点、メカニズム、そして支援方法について学ぶ。 授業形態：講義 【事前学習】第３章を読む。 【事後学習】第２章を読む。配布資料を読む。クイズに備える。 第７回　カウンセリングスキルの体験学習（１）共感スキル カウンセリングの基礎である言語的スキルを学ぶ。授業ではお互いのロールプレーの実践も行う。 授業形態：講義・演習 【事前学習】第２章を読む。配布資料を読む。

		【事後学習】配布資料を読む。クイズに備える。
	第８回	カウンセリングスキルの体験学習（２）信頼関係づくり カウンセリングの基礎である非言語スキルも学ぶ。授業ではお互いのロールプレーの実践も行う。 授業形態：講義・演習 【事前学習】配布資料を読む。 【事後学習】配布資料を読む。クイズに備える。
	第９回	こころの問題の種類と教育相談（１）性的マイノリティについて（LGBT等） 性的マイノリティについて学ぶ。事例研究も行う。 授業形態：講義・演習 【事前学習】配布資料を読む。 【事後学習】配布資料を読む。クイズに備える。
	第10回	こころの問題の種類と教育相談（２）なぞの声が聞こえる（統合失調症） 精神障害の中でも重い統合失調症について学ぶ。世間では間違った病気に対する認識を持つ傾向があるので、正しい情報・知識を身につける。 授業形態：講義 【事前学習】配布資料を読む。 【事後学習】第１３章を読む。クイズに備える。
	第11回	教育相談と事例研究：外部の教育相談関係機関とのつながり 他機関との連携について学ぶ。沖縄における連携機関の紹介や事例から学ぶ。 授業形態：講義 【事前学習】第１３章を読む。 【事後学習】第１２章を読む。クイズに備える。
	第12回	教育相談と事例研究：組織的な取り組み 学校内での協力体制について学ぶ。学級担任と学年会との連携、生徒指導の先生と学校医教育相談の先生、養護教諭との協力も必要となるし、学校長やスクールカウンセラーとの関係についても学ぶ。 授業形態：講義 【事前学習】第１２章を読む。 【事後学習】第１１章を読む。クイズに備える。
	第13回	保護者に対する援助 保護者との信頼関係や、親子関係の修復、またファミリーセラピーという視点から家族メンバーの絆や影響の違いについて学ぶ。 授業形態：講義 【事前学習】第１１章を読む。 【事後学習】配布資料を読む。クイズに備える。
	第14回	心理検査とその利用 スクールカウンセリングや学級での活動で利用できる心理検査について紹介する。 【事前学習】配布資料を読む。 【事後学習】今までのクイズを持ってくる。次週のクイズに備える。
	第15回	全体の振り返り 今までの振り返りを行う。カウンセリングの実践も行う。 授業形態：講義・演習 【事前学習】ラストのクイズにそなえる。 【事後学習】期末試験にそなえる。
	第16回	定期試験：期末試験　いままでのまとめ 期末試験を受ける。
授業における具体的な特色や方法	１）アクティブ・ラーニングを促す取組【○】 ２）情報リテラシーに関する科目　　　【　】 ３）ICTの活用　　　　　　　　　　　【○】 ４）初年次教育　　　　　　　　　　　【　】	
テキスト	「学校教育相談」一丸　藤太郎　MINERVA教職講座	
参考書	「実践ハンドブック　学校カウンセリングの考え方・進め方」松原達哉 「図解雑学　臨床心理学」松原達哉	
評価方法	授業への参加度（10%）、毎回のクイズ（30%）、期末試験（40%）、課題（20%）	
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀（A）90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優（B）80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良（C）70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可（D）60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可（F）60点未満：到達目標を達成していない	

	欠（K） － ：試験欠席・レポート未提出・出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【ＤＰ 1～4との関連】 ○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること .. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ○ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	毎週クイズがある
オフィスアワー	毎週水曜日　午後１時～２時半　柳田研修室
課題に対するフィードバック方法	授業中に質問に応答する。メールでも質問に応答する。

講義科目名称：　教育実習事前事後研究　　　　　　　　　　　授業コード：

英文科目名称：　Pre, Post-Teaching Practicum Seminar

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	４年	1単位(0-2)	教職科目
担当教員			
照屋信治・大城直人			
授業形態：演習	ナンバリング：TTC401		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】事前研究では、教育実習を行い、教育活動に参画する自覚を高める。事後研究では、自身の課題を省察する。 【達成目標】１．教員の職務と学校現場の状況を理解する。２．教育実習の目的を明確にし、実習目標をたてて実習に臨むことができる。３．これまで学んだ知識を統合し、実践に移すことができる。４．学校現場の諸問題を考察し、積極的に議論に参加できる。５．実習校と連絡をとり、実習への打ち合わせや授業計画等について責任を持って対応できる。
授業の概要	（事前研究）教育実習の目的・意義について理解を深め、教育実習に対する心構えと実習教師としての基本的な知識や指導性を確実に身につける。また、教員の職務内容や教員の職務内容や教育現場に対する理解を図り実習への備えとする。授業は本講義担当者の講義、受講生同士のディスカッションによって構成される。実習に対する自己の目標を明確にし、実習への意欲を高めるものとしたい。 （事後研究）教育実習期間中の「中間報告」及び終了後の「事後報告」を通じて、学校種（中学校・高等学校）、学習環境（地域差、学習母集団）等の違いによる教育の多面性を共有し、多様な教育課題を見付けるとともに、教育実習、介護等体験や教職科目において学んだ全ての事柄をあらためて整理、統合、検討、評価する。また、個人発表やグループ活動、ディスカッション等の講義から、その教育課題、教育の本質について議論を深めていく。それらの活動は、教育現場の体験の成果をより明確に今後の教育活動に位置づけ、現場体験に基づいた「教育観・教師観」を培うものである。
授業計画	第１回　講義の概要説明、実習に向けて スケジュールの確認、本講義で学ぶことの概要説明を行う。各自の教育実習に向けての取り組み状況を確認する。 【事前学習】教育実習に向けて取り組んでいる現状を確認し、質問事項等を考えておく。 【事後学習】今後の授業計画を踏まえ、教育実習に向けた各自のスケジュールを組み立てる。 第２回　学校訪問について、教育実習レポート、教員採用試験 学校訪問の際の身だしなみ、確認すべき事項、心構え、等について確認する。 【事前学習】学校訪問に関する質問事項をまとめておく。 【事後学習】教育実習レポートを読み、課題レポートに取り組む。 第３回　実習前に準備すべきこと 教材研究、アクティビティ、授業の準備、学級・HRの状況、指導教員との連絡等、実習前に準備することを確認する。 【事前学習】教育実習に関する質問事項をまとめておく。 【事後学習】配布した資料に目を通し、課題（振り返りレポート）に取り組む。 第４回　講話：高等学校の現場から 高等学校で英語を担当する教員をゲストスピーカーに招いて、教育実習の心構えを講義していただく。 【事前学習】高等学校における教員の仕事に関する質問事項をまとめておく。 【事後学習】講話の内容を踏まえ、課題（レポート）に取り組む。 第５回　講話：中学校の現場から 中学校で英語を担当する教員をゲストスピーカーに招いて、教育実習の心構えを講義していただく。 【事前学習】中学校における教員の仕事に関する質問事項をまとめておく。 【事後学習】講話の内容を踏まえ、課題（レポート）に取り組む。 第６回　教育実習についての基礎的な知識の確認 テキスト『教育実習の常識』を用いて、担当教員からのレクチャー（特に生徒指導、HR経営に関して）。 【事前学習】テキストの指定された箇所を読み、質疑応答に備え質問を考えておく。 【事後学習】授業で触れた重要な留意点を振り返り、見直しておく。 第７回　教育実習についての基礎的な知識の確認 テキスト『教育実習の常識』を用いて、受講者にミニレクチャーを行ってもらう。 【事前学習】発表担当箇所を重点的にテキストを読み、発表の準備を行う。 【事後学習】授業で触れた重要な留意点を振り返り、見直しておく。 第８回　教育実習中間報告会① 全ての受講者が教育実習期間の土曜日に行う。全員参加であり、実習生が直面している諸問題について共有し、意見交換を行う（受講者が１２人であれば３コマ、１５人であれば４コマ行う）。 【事前学習】報告する内容、共有を図りたい内容について考え、まとめておく。 【事後学習】他の実習生の状況やフィードバックを踏まえ、教育実習の充実に役立てる。 第９回　教育実習中間報告会② 全ての受講者が教育実習期間の土曜日に行う。全員参加であり、実習生が直面している諸問題について共有し、意見交換を行う。 【事前学習】報告する内容、共有を図りたい内容について考え、まとめておく。 【事後学習】他の実習生の状況やフィードバックを踏まえ、教育実習の充実に役立てる。 第１０回　教育実習中間報告会③ 全ての受講者が教育実習期間の土曜日に行う。全員参加であり、実習生が直面している諸問題について共有し、意見交換を行う。

	【事前学習】報告する内容、共有を図りたい内容について考え、まとめておく。 【事後学習】他の実習生の状況やフィードバックを踏まえ、教育実習の充実に役立てる。 第１１回　教育実習反省会① 全ての受講者が教育実習終了後に土曜日などを利用し行う。全員参加し、教育実習の経験を反省し吟味する。１人３０分ほど（受講者が１２人であれば3コマ、１５人であれば4コマ行う）。 【事前学習】教育実習を振り返り、発表の観点に沿って報告する内容を考え、まとめておく。 【事後学習】コメントやフィードバックを踏まえ、今後の教育実践に活かす。 第１２回　教育実習反省会② 全ての受講者が教育実習終了後に土曜日などを利用し行う。全員参加し、教育実習の経験を反省し吟味する。１人３０分ほど。 【事前学習】教育実習を振り返り、発表の観点に沿って報告する内容を考え、まとめておく。 【事後学習】コメントやフィードバックを踏まえ、今後の教育実践に活かす。 第１３回　教育実習反省会③ 全ての受講者が教育実習終了後に土曜日などを利用し行う。全員参加し、教育実習の経験を反省し吟味する。１人３０分ほど。 【事前学習】教育実習を振り返り、発表の観点に沿って報告する内容を考え、まとめておく。 【事後学習】コメントやフィードバックを踏まえ、今後の教育実践に活かす。 第１４回　教育実習レポートの作成 教育実習の内容を、クラス内でシェアし、その後、レポートにすることで何度も反芻してもらう。教育実習という貴重な体験をやりっぱなしの経験に終わらせることなく、経験の意味を吟味することに努める。 【事前学習】教育実習を振り返り、レポート作成要領に沿って、レポート執筆に取り組む。 【事後学習】それぞれのレポートに目を通し、教育実習で得た学びを再度振り返り、学びの深化を図る。 第１５回　教育実習成果報告会 １・２・３年生の教職履修性に向けた教育実習成果報告会を行うことにより、自身の教育実習の意味を再確認する。 【事前学習】報告会の配布資料作成に加え、発表要領を踏まえ、報告会の準備に取り組む。 【事後学習】コメントやフィードバックを踏まえ、教育実習を振り返り、総括を行う。
授業における具体的な特色や方法	１）アクティブ・ラーニングを促す取組【〇】 ２）情報リテラシーに関する科目　【〇】 ３）ICTの活用　【〇】 ４）初年次教育　【　】
テキスト	教育実習を考える会 編　『新編 教育実習の常識』(第8版)倉丘書林 2005
参考書	特になし
評価方法	1.授業態度・授業への参加度（40%）　2.発表・討議参加（30%）　3.レポート・提出物（30%）
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀（A）90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優（B）80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良（C）70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可（D）60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可（F）60点未満：到達目標を達成していない 欠（K）　－　：試験欠席・レポート未提出・出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【ＤＰ 1～4との関連】 〇 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること 〇 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ‥ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ‥ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	１　教師としての資質が問われる体験学習であり、教職科目の必修科目であることに照らして、出席状況等を充分加味する。全回出席するのが基本だが、やむを得ず欠席する時は確実に欠席届けを提出する。 ２　「事前・中間・事後指導」の履修を持って教育実習研究は完結する。よって前期から後期にまたがる期間行うことになる。
オフィスアワー	照屋：水曜日と木曜日の昼食時間　照屋研究室 大城：月曜日と水曜日の３限目　大城研究室
課題に対するフィードバック方法	課題はコメントを付し、授業中に返却する。

講義科目名称： 教育実習（中学）　　授業コード：

英文科目名称： Senior High School Teaching Practicum

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	４年	4単位	教職科目
担当教員			
照屋信治・大城直人			
授業形態：実習	ナンバリング：TTC402		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 中学校において教育実習を行う。教職課程での学びを中学校の現場で確認し、自身の課題を発見する。 【到達目標】 ①教科指導ができる。（教科や指導に関する知識・理解・技能，教材研究と授業準備） ②生徒指導ができる。（生徒理解と実態把握，学級経営，課外活動への関心） ③意欲を持って実習に臨み，態度に示すことができる。（勤怠状況，実習への意欲，学級事務等の実務能力等）
授業の概要	教育実習の意義は、実習校の指導教諭の下で、実際の教育活動を体験することにより、教員としての心構えや教育活動に必要な基本的な知識・技術を多方面に学び、教育の本質についての認識を深めることである。実習は、中学校において９月に実施され、実習期間は原則的に３週間（１２０時間）である。但し、二学期制の学校の場合、９月以前に実施されることがある。中学校教育実習「５単位」は、実習校において１２０時間の実習を行うとともに、大学において、科目「教育実習事前事後研究」（１単位）を履修し、所定の要件を満たしてはじめて認定されるものである。
授業計画	１．　教育実習の内容 学校教育において学ぶべき教育活動は広範囲に及ぶため、その全てを限られた実習期間で体験し理解することは困難である。従って、特に、次の領域について理解を深めることを目指す。 （１）学校組織 （２）生徒の実態把握 （３）生徒指導 （４）教科指導 （５）「道徳」の指導 （６）学級経営 （７）特別活動 （８）諸表簿の扱い ２．　教育実習の形態 教育実習は、主に、次の３つの形態に分類され、相互に関連しながら段階的に実習が進められる。 （１）観察実習：生徒の学習活動や生活活動、教師の教育活動を観察し、学校教育の実態を総合的に理解する。 （２）参加実習：実習指導教諭の指導の下、様々な教育活動に参加して現場の実際を学ぶ。 （３）教壇実習：実習指導教諭の指導の下、教科指導を分担し、自ら教壇に立って授業を実践する。原則として、教壇実習は１０時間以上とする。 ３．　授業参観 授業参観に際しては、漫然と参観するのではなく、研究的な姿勢をもって参観し、必要に応じて留意点を記録し、自身の教壇実習に生かせるよう心がける。特に、次の点に注目しながら観察を行う。 （１）学習環境はどのように整備されているか （２）どのような指導形態がとられているか （３）教師の発問 （４）生徒の発言、応答への対応 ４．　教科指導 授業観察、参観を経て、教壇実習を行い、教科指導の実際について体験的に学びを深める。指導に際しては、指導案を作成し、指導教諭の指導・助言を仰ぎながら、望ましい指導のあり方について理解を深める。 【教科指導上の心得】 （１）学習指導要領及び教科書を熟読し、学年・単元の目標を理解する。 （２）授業（教壇実習）を行う場合、指導案を作成し、前日までに指導教諭に提出して指導を受ける。 （３）授業終了後は、『実習記録簿』に内容を記録し、速やかに指導教諭の指導を受ける。 （４）授業の開始・終了時間を遵守する。 ５．　生徒指導 生徒指導は全ての教育活動の基本とも言える。多様な教育活動の機会を通して生徒理解に努め、指導教諭の指導・助言を仰ぎながら、望ましい指導のあり方を体験的に習得する。 【生徒指導上の心得】 （１）実習校の生徒指導方針に従う （２）生徒の名前をできるだけ早く覚える （３）言動に注意し、生徒に対しては指導者としての態度を堅持する （４）生徒に対しては公平に接する （５）生徒の指導に際しては、体罰を加えてはならない （６）個人情報の扱いに注意を払う

	（７）生徒の健康・安全に気を配り、事故やけがが発生した場合は、速やかに実習校の教職員と連携する。
授業における具体的な特色や方法	１）アクティブ・ラーニングを促す取組【○】 ２）情報リテラシーに関する科目　　　【○】 ３）ICTの活用　　　　　　　　　　　【○】 ４）初年次教育　　　　　　　　　　　【　】
テキスト	１．実習校使用の英語教科書 ２．実習校使用教科書のマニュアル ３．その他(学校要覧、学校経営計画等)
参考書	教育実習を考える会　編『新編　教育実習の常識』　蒼丘書林、2000年
評価方法	1.実習校指導教員の評価（70%）　2.実習レポート（20%）　3.研究授業（10%）
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀（A）90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優（B）80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良（C）70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可（D）60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可（F）60点未満：到達目標を達成していない 欠（K）　－　：試験欠席・レポート未提出・出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【ＤＰ 1～4との関連】 ○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ‥ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ○ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	１．指定された「教職科目」を履修済みあること。 ２．教育実習に関するガイダンス・オリエンテーションに出席すること。 ３．その他、必要な要件を満たしていること。
オフィスアワー	照屋：水曜日と木曜日の昼食時間　照屋研究室 大城：月曜日と水曜日の３限目　大城研究室
課題に対するフィードバック方法	教育実習期間の土曜日に行う中間報告会で助言を与える。事後報告会での報告へ口頭でフィードバックする。

講義科目名称： 教育実習（高校）　　授業コード：

英文科目名称： Senior High School Teaching Practicum

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	４年	2単位	教職科目
担当教員			
照屋信治・大城直人			
授業形態：実習	ナンバリング：TTC403		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 高等学校において教育実習を行う。教職課程での学びを高等学校で確認し、自身の課題を発見する。 【到達目標】 ①教科指導ができる。（教科や指導に関する知識・理解・技能，教材研究と授業準備） ②生徒指導ができる。（生徒理解と実態把握，学級経営，課外活動への関心） ③意欲を持って実習に臨み態度に示すことができる。（勤怠状況，実習への意欲，学級事務等の実務能力）
授業の概要	教育実習の意義は、実習校の指導教諭の下で、実際の教育活動を体験することにより、教員としての心構えや教育活動に必要な基本的な知識・技術を多面的に学び、教育の本質についての認識を深めることにある。実習は、６月に高等学校において実施され、実習期間は原則的に２週間（８０時間）である。高等学校教育実習「３単位」は、実習校において８０時間の実習を行うとともに、大学における実習のためのガイダンスやオリエンテーションに出席し、科目「教育実習研究・事前事後指導」(1単位)を履修し、所定の要件を満たしてはじめて認定されるものである。
授業計画	１．　教育実習の内容 学校教育において学ぶべき教育活動は広範囲に及ぶため、その全てを限られた実習期間で体験し理解することは困難である。従って、特に、次の領域について理解を深めることを目指す。 （１）学校組織 （２）生徒の実態把握 （３）生徒指導 （４）教科指導 （５）学級経営 （６）特別活動 （７）諸表簿の扱い ２．　教育実習の形態 教育実習は、主に、次の３つの形態に分類され、相互に関連しながら段階的に実習が進められる。 （１）観察実習：生徒の学習活動や生活活動、教師の教育活動を観察し、学校教育の実態を総合的に理解する。 （２）参加実習：実習指導教諭の指導の下、様々な教育活動に参加して現場の実際を学ぶ。 （３）教壇実習：実習指導教諭の指導の下、教科指導を分担し、自ら教壇に立って授業を実践する。原則として、教壇実習は７時間以上とする。 ３．　授業参観 授業参観に際しては、漫然と参観するのではなく、研究的な姿勢をもって参観し、必要に応じて留意点を記録し、自身の教壇実習に生かせるよう心がける。特に、次の点に注目しながら観察を行う。 （１）学習環境はどのように整備されているか （２）どのような指導形態がとられているか （３）教師の発問 （４）生徒の発言、応答への対応 ４．　教科指導 授業観察、参観を経て、教壇実習を行い、教科指導の実際について体験的に学びを深める。指導に際しては、指導案を作成し、指導教諭の指導・助言を仰ぎながら、望ましい指導のあり方について理解を深める。 【教科指導上の心得】 （１）学習指導要領及び教科書を熟読し、学年・単元の目標を理解する。 （２）授業（教壇実習）を行う場合、指導案を作成し、前日までに指導教諭に提出して指導を受ける。 （３）授業終了後は、『実習記録簿』に内容を記録し、速やかに指導教諭の指導を受ける。 （４）授業の開始・終了時間を遵守する。 ５．　生徒指導 生徒指導は全ての教育活動の基本とも言える。多様な教育活動の機会を通して生徒理解に努め、指導教諭の指導・助言を仰ぎながら、望ましい指導のあり方を体験的に習得する。 【生徒指導上の心得】 （１）実習校の生徒指導方針に従う （２）生徒の名前をできるだけ早く覚える （３）言動に注意し、生徒に対しては指導者としての態度を堅持する （４）生徒に対しては公平に接する （５）生徒の指導に際しては、体罰を加えてはならない （６）個人情報の扱いに注意を払う （７）生徒の健康・安全に気を配り、事故やけがが発生した場合は、速やかに実習校の教職員と連携する。

授業における具体的な特色や方法	1）アクティブ・ラーニングを促す取組【〇】 2）情報リテラシーに関する科目　　　【〇】 3）ICTの活用　　　　　　　　　　　【〇】 4）初年次教育　　　　　　　　　　　【　】
テキスト	1．　実習校使用の英語教科書 2．　実習校使用教科書のマニュアル 3．　その他（学校要覧、学校経営計画等）
参考書	教育実習を考える会編『新編　教育実習の常識』蒼丘書林、2000年
評価方法	1.実習校指導教員の評価（70%）　2.実習レポート（20%）　3.研究授業（10%）
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀（A）90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優（B）80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良（C）70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可（D）60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可（F）60点未満：到達目標を達成していない 欠（K）　－　：試験欠席・レポート未提出・出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【ＤＰ 1～4との関連】 〇 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること 〇 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ‥ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること 〇 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	1．指定された「教職科目」を履修済であること。 2．教育実習に関するガイダンス・オリエンテーションに出席すること。 3．その他、必要な要件をみたしていること。
オフィスアワー	照屋：水曜日と木曜日の昼食時間　照屋研究室 大城：月曜日と水曜日の３限目　大城研究室
課題に対するフィードバック方法	教育実習期間の中間報告会や、教育実習終了後の事後報告会で助言を与える。レポートなどはコメントを付し返却する。

講義科目名称： 教職実践演習（中・高）　　　　　　　　　授業コード：

英文科目名称： Student Teaching(Junior/Senior High School)

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	４年	2単位(0-2)	教職科目
担当教員			
照屋信治・大城直人			
授業形態：演習	ナンバリング：TTC404		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 教職の授業を通して得た学習知と教育実習、介護等体験、学習支援ボランティア等で得た指導力や実践力、そして経験知を統合し、全学年を通じた「学びの軌跡の集大成」として位置づける。 【到達目標】①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を高める。②社会性や対人関係能力を高める。③生徒理解を深め、学級経営の知識や技術を得る。④教科内容等の指導力を高める。
授業の概要	4年間で学んだことを有機的に統合し、教師としての使命感や責任感、そして教育的愛情に裏打ちされた実践的指導力を有する教員としての資質形成を目指す。また、多様な教育課題やその展望についてグループ討議やロールプレイを通して考察する中で、教師に求められる社会性や対人能力を培っていきたい。自己の取り組むべき課題を認識し、必要な知識や技能等を補いながら、教壇実践を円滑にスタートさせることができるよう、本学教員と外部教育関係者とで連携して演習を実施する。
授業計画	第１回　講義の概要説明、自己の課題の確認（履修カルテを利用した個別面談） 授業の概要説明。教師に求められている４つの事項を確認する（①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項、④教科・保育内容等の指導力に関する事項）。授業時間外に時間を設定し個別面談を行う。 【事前学習】教職課程におけるこれまでの学びを振り返り、自らの強み・弱みについて考える。 【事後学習】教師に求められる４つの資質に照らし、自らの課題を明らかにする。 第２回　学校フィールドワーク ２日間の学校フィールドワークの概要説明、グループ分け。実習小学校に関する事前学習。 【事前学習】小学校の現状について、各自の興味関心に照らし、情報収集を行う。 【事後学習】学校フィールドワークに向けて、準備を進める。 第３回　学校フィールドワーク実習①観察実習、授業支援 学校フィールをワークでは、西原町内の小学校で観察実習、授業支援、学習支援などを行う。２日のうち、初日は観察実習、授業支援を行う。 【事前学習】学校フィールドワークの心得を確認し、フィールドワークに備える。 【事後学習】初日の体験を振り返り、記録簿作成に取り組む。 第４回　学校フィールドワーク実習②小学校外国語活動の授業支援、学習支援 ２日目は特に、小学校外国語活動（あるいは小学校英語）を観察し、授業に関わることで、中学校入学前の英語教育の状況を把握する。 【事前学習】小学校外国語活動について現況を調べ、フィールドワークに備える。 【事後学習】小学校外国語活動の体験を振り返り、記録簿作成に取り組む。 第５回　学校フィールドワークの報告会 学校フィールドワークの状況、そこで学んだことを、グループ内で共有し、小学校と中学校の接続・連携について考察を深める。 【事前学習】２日間の体験を振り返り、報告会での発表に向けた準備を行う。 【事後学習】体験を共有し、コメントやフィードバックを踏まえ、小中連携の意義について理解を深める。 第６回　生徒理解に関する授業（教育相談について） 沖縄県総合教育センター指導主事をゲストスピーカーとして招き、教育相談、生徒指導についての現状をお話しいただく。 【事前学習】教育相談、生徒指導に関して、質問事項を準備しておく。 【事後学習】講話の内容を振り返り、課題（感想レポート）に取り組む。 第７回　教科に関する授業（沖縄県の英語教育について） 沖縄県総合教育センター指導主事をゲストスピーカーとして招き、沖縄県の英語教育の課題についてお話しいただく。 【事前学習】沖縄県の英語教育の現状に関して、質問事項を準備しておく。 【事後学習】講話の内容を振り返り、課題（感想レポート）に取り組む。 第８回　教科に関する授業（アクティビティ研究） 教職課程履修中の３年生に対して、教育実習で行った英語授業のアクティビティの発表会を行う。 【事前学習】アクティビティ集の作成を行い、報告会の発表に向けた準備を行う。 【事後学習】質問、コメント、フィードバックを踏まえ、英語の指導法についてさらに探求を深める。 第９回　教科に関する授業（アクティビティ研究の検討会） 教職課程履修中の３年生とともに、英語授業におけるアクティビティの有効活用について話し合いを行う。 【事前学習】アクティビティ集の作成を行い、報告会の発表に向けた準備を行う。 【事後学習】質問、コメント、フィードバックを踏まえ、英語の指導法についてさらに探求を深める。 第１０回　教科に関する授業（研究授業） 特定のテーマを定めて研究授業を行う。教職課程履修中の３年生に生徒役をお願いし、その後、具体的な検討を行う。 【事前学習】研究授業を振り返り、模擬授業に向けた準備を行う。

	【事後学習】質問、コメント、フィードバックを踏まえ、英語の指導法についてさらに探求を深める。 第１１回　道徳に関する授業 エンカウンターを用いた道徳授業の研究授業を行い、その後にグループ討議を行う。 【事前学習】配布資料に目を通し、内容理解を深めるとともに、質問事項を考えておく。 【事後学習】様々な意見や考え方を振り返り、道徳に関する授業づくりの観点を見直す。 第１２回　特別活動に関する授業 特別活動に関する実践報告論文を輪読し、討議する。全国生活指導研究会の実践報告論文をテキストにする。 【事前学習】配布資料に目を通し、内容理解を深めるとともに、質問事項を考えておく。 【事後学習】様々な意見や考え方を振り返り、特別活動における留意点を見直す。 第１３回　学級経営・生徒理解に関する授業 学級経営・生徒理解に関する実践報告論文を輪読し、討議する。全国生活指導研究会の実践報告論文をテキストにする。 【事前学習】配布資料に目を通し、内容理解を深めるとともに、質問事項を考えておく。 【事後学習】様々な意見や考え方を振り返り、学級経営・生徒理解に関する留意点を見直す。 第１４回　教職課程修了の報告会に向けての討議 教職課程修了の報告会に向けての事前の報告会、討議、準備を行う。 【事前学習】教職課程におけるこれまでの学びを振り返り、総括を行う。 【事後学習】報告会に向けての準備に関する留意点を確認する。 第１５回　教職課程修了の報告会 教育実習を中心の４年間の教職課程で学んだことを、１・２・３年の教職課程履修者の前で報告してもらう。 【事前学習】報告会に向けて、発表要領を踏まえ、準備を進める。 【事後学習】コメントやフィードバックを踏まえ、教職課程における学びを振り返り、学びの昇華に努める。
授業における具体的な特色や方法	１）アクティブ・ラーニングを促す取組【○】 ２）情報リテラシーに関する科目　【○】 ３）ICTの活用　【○】 ４）初年次教育　【　】
テキスト	授業内容に応じて資料を配布
参考書	適宜提供 文部科学省『中学校学習指導要領』
評価方法	1.授業態度・授業への参加度（40%）　2.発表・討議参加（30%）　3.レポート・提出物（20%）　4.個別面談（10%）
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀（A）90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優（B）80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良（C）70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可（D）60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可（F）60点未満：到達目標を達成していない 欠（K）　－　：試験欠席・レポート未提出・出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【ＤＰ 1～4との関連】 ○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ‥ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ‥ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	特になし
オフィスアワー	照屋：水曜日と木曜日の昼食時間　照屋研究室 大城：月曜日と水曜日の３限目　大城研究室
課題に対するフィードバック方法	課題は授業中にコメントを付し返却する。プレゼン、発表などの課題は授業中に口頭でフィードバックする。